

基本計画における各機能の考え方

参考資料

大ホール系機能		小ホール系機能	
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・大型の舞台芸術の上演機能を備え、可動式音響反射板を設置し生音の響きを活かすことのできる多目的なホールを目指す。 ・多くの市民が優れた芸術文化を身近に鑑賞することを主たる目的とする一方で、市民の芸術文化活動の発表の場としても機能する。 	考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民が自ら芸術文化活動の成果を発表・上演するとともに、優れた公演を鑑賞することのできるホールを目指す。 ・可動式音響反射板を設置した時には、生音の響きを十分に活かすことのできるホールとして計画する。
舞台	<p>○クラシック音楽・ポピュラー音楽などの音楽芸術やオペラ・バレエ・ミュージカル・演劇・歌舞伎等の舞台芸術など各ジャンルの公演、市民による各種芸術文化活動の発表、市民集会、学校や事業所の式典、大規模大会などの用途が想定される。</p> <p>○生音の響きが求められるオーケストラによる音楽利用から、本格的な舞台芸術作品の上演まで、多様な演目に対応することのできる多目的型とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可動式音響反射板を備えることで、生音の響きを活かす音楽利用にも十分に対応できる機能を備える。 ・本格的な舞台芸術作品の上演に対応できる充実した舞台設備を備える。 ・プロセニウム形式の舞台を持つホールを基本とする。 ・十分な広さの側舞台を確保する。 <p>○大型搬入車両（ガルウイングにも対応）による荷捌きが可能な搬入口を備える。</p> <p>○舞台に隣接して楽器庫、十分な広さを備えた舞台備品倉庫などを計画する。</p>	舞台	<p>○クラシック音楽・ポピュラー音楽などの音楽芸術やミュージカル・演劇等の舞台芸術、伝統芸能など各ジャンルの公演、バレエやピアノなどをはじめとする市民による各種芸術文化活動の発表、市民集会、講演会、映像作品の上映などの用途が想定される。</p> <p>○生音の響きが求められる音楽利用から、舞台芸術作品の上演まで、多様な演目に対応する多目的型とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可動式音響反射板を備え、生音の響きを活かす音楽利用にも十分に対応できる機能を備える。 ・舞台芸術作品の上演に対応できる舞台設備を備える。 <p>○大型搬入車両（ガルウイングにも対応）による荷捌きが可能な搬出入口を備える。</p> <p>○舞台に隣接して楽器庫、十分な広さの舞台備品倉庫などを計画する。</p>
客席	<p>○客席は1,200席程度とする。</p> <p>○多層バルコニー席を備え、1階席のみを利用した700席から800席程度の場合でも空席感を感じることがない計画とし、大小ホールの中間的な規模のホールとしての利用ができるように配慮する。</p> <p>○舞台からの視距離を極力短くするとともに、客席の配置について考慮し、どの席からも十分な鑑賞環境を確保する。</p> <p>○舞台上から発せられた音を客席全体に有効に響かせることができる客席形状を工夫する。</p> <p>○客席の快適性にも配慮した計画とする。</p> <p>○固定客席を基本として、オーケストラピットなど一部可動する機能を備える。</p> <p>○車いすでの鑑賞には、介助者も含め、十分な鑑賞環境を確保するよう配慮する。</p> <p>○客席後部に各種調整室、多目的室を配置する。</p>	客席	<p>○300席程度の段床式の固定席とする。</p> <p>○張出舞台が容易に設置できるように、一部除外し可能な席を計画する。</p> <p>○どの席からも十分な鑑賞条件を確保するよう、客席の配置に配慮する。</p> <p>○車いすでの鑑賞には、介助者も含め、十分な鑑賞環境を確保するよう配慮する。</p> <p>○客席後部には、各種調整室及び多目的室を配置する。</p>
付随機能	<p>○ホワイエには、バーカウンター、トイレ（女性数に配慮・みんなのトイレを含む）、主催者事務室や客席係控室、クローク（一部ロッカーでの対応も検討）、付随する倉庫などを計画する。</p> <p>○楽屋は、十分な設備を備えた大・中・小楽屋を不足のないように計画し、防音にも配慮する。</p> <p>○楽屋エリアには、舞台技術スタッフ控室、アーティストラウンジ、給湯室、トイレ（みんなのトイレを含む）、シャワー、洗濯・乾燥機スペース、楽屋事務所（楽屋口に隣接）などを計画する。</p>	付随機能	<p>○ホワイエには、バーカウンター、トイレ（女性数に配慮・みんなのトイレを含む）、主催者事務室や客席係控室、クローク（一部ロッカーでの対応も検討）、付随する倉庫などを計画する。</p> <p>○楽屋は、必要な設備を備えた大・中・小楽屋を不足のないように計画し、防音にも配慮する。</p> <p>○楽屋エリアには、舞台技術スタッフ控室、アーティストラウンジ、給湯室、トイレ（みんなのトイレを含む）、シャワー、楽屋事務所（楽屋口に隣接）などを計画する。</p>

基本計画における各機能の考え方

参考資料

展示系機能		創造系・支援系機能	
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・平面作品だけでなく、多様な表現を持つ現代の芸術作品、立体作品や工芸作品の展示に対応できる計画とする。 ・多様化するアートシーンに対応できるよう、創造系機能諸室などと連携した利用が可能な計画とするほか、パフォーマンスなど幅広い利用への対応ができるように検討する。 	考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が芸術文化の創造活動を行う場として、また、その日常的な活動を支援するための機能を備えた諸室と、その活動を支えるための備品などを納めるのに十分な広さを備えた倉庫を計画する。ただし、他の機能と併用できる備品については共有化を図る。
ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ○大型の作品を展示できるように、4m程度の有効天井高さを備え、350㎡程度の展示空間を確保する。四周を展示壁面としますが、可動展示パネルにより、展示壁面長を補うと共に、小展示空間に分ける区画としても活用し、それぞれが単独利用できる自由度の高い展示空間を作れるようにする。 ○床仕上げは、フローリングの床を基本とする。 ○平面作品だけでなく立体展示や生け花など多様な展示に対応できる計画とする。 ○展示利用以外にも、関連するワークショップや講演などの利用を計画する。 ○継続した展示を行うことで、市民が恒常的に集い、にぎわいの創出に寄与するとともに、そのにぎわいがギャラリーの外にもあふれ出るような配置計画とする。 ○音楽とのコラボレーションなど多様なアートシーンに対応する設備を備える。 ○大スタジオやワークショップルームとの連携を考慮するとともに、にぎわいの創出につなげることのできる配置とする。 ○有料での企画にも対応できる施設計画とする。 ○演出を伴うような多彩な事業に対応できる演出照明や音響などを計画する。 	大スタジオ	<ul style="list-style-type: none"> ○芸術文化創造活動の公演、練習やリハーサル、展示などに利用できる室とする。 ○大ホールの主舞台に準じる広さを備え、練習やリハーサルに必要な広さと演出家やデザイナー、スタッフが控えるためのスペースを確保した面積とする。また、舞台芸術の創造を支える演出設備や機能を備え、大道具などを仮仕込みした状態での練習やリハーサルも行えるように計画する。 ○小規模な公演や試演会などが行えるよう、必要な建築条件を満たすとともに、演出設備や機能を備える。 ○平土間とすることで、任意の位置に舞台や客席が配置でき、舞台芸術や音楽芸術の公演だけではなく、自由な発想での利用を支援できる計画とする。そのために必要な遮音や静音性など建築音響性能を備える。 ○催し物の内容によって、ホールの楽屋、展示、懇親会会場としても利用できる機能を備え、ここに至る動線にも配慮する。展示については、ギャラリーとの連携を考慮する。 ○公演利用に際しては、更衣室や控室としても転用できる諸室を計画していく。また、多数の備品が必要になるため、適切な規模の倉庫を計画する。
準備室	<ul style="list-style-type: none"> ○展示のための準備を行うための機能を、ギャラリーに隣接して計画する。 ○様々な展示に配慮するため、水場や作業台などに加えて必要な備品庫などを整備する。 	中スタジオ	<ul style="list-style-type: none"> ○小規模の練習やリハーサルが行える室とする。 ○公演利用に際しては、楽屋や控え室として利用することも想定する。 ○中スタジオは小ホールの主舞台に準じる広さを備えるものとする。 ○上記の他に、より小規模な室の設置も検討する。
備品庫・収納他	<ul style="list-style-type: none"> ○展示台や展示照明、脚立や高所作業台、その他必要な備品を収納しておくための室を付属させる。 ○展示系機能のために専用で使用できる搬入口を計画する。 	小スタジオ	<ul style="list-style-type: none"> ○個人や小人数での練習やリハーサルなどが行える室として、中スタジオより小規模なスタジオを複数計画する。 ○肉声や生音の楽器の練習に適したスタジオと、電気楽器を使用できる吸音性能と遮音性能を備えたスタジオを整備する。 ○ピアノやドラムセットを常設する室を設けることも検討する。
		ワークショップルーム	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークショップや会議、小規模のレクチャーなどが行える室とし、必要な機能や設備を備える。 ○ワークショップルームは複数計画し、必要に応じて隣室と一体利用ができるなど、利用によって室の大きさが可変できるようにする。ただし、隣室間では、一定の遮音性能を備える必要がある。

創造系・支援系機能		交流系機能	
創造スタッフ室	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に市民参加活動を行なっていこうとする市民（あるいは団体）の活動拠点となる室とする。 ○打合わせや印刷などの作業に加えて、市民活動を支える機能や設備を備える。 ○市民団体間の交流の場となることも想定する。 	考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が日常的に集い、交流する、にぎわいづくりの場として、気軽に訪れ、利用のできるスペースとして計画する。
更衣室	<ul style="list-style-type: none"> ○各スタジオで必要な更衣室を男女別に整備する。また、併設してシャワー室やトイレなども計画する。 ○各スタジオを利用するために手荷物を預けることのできるロッカーを計画する。 	オープンロビー	<ul style="list-style-type: none"> ○“施設の顔”となる機能として、オープンロビーを計画します。全ての来館者の主たる出入口であるとともに、インフォメーション、情報コーナー、チケットカウンターなどの機能を備える。 ○施設来館者の全てが利用できるトイレ（多目的トイレを含む）、ロッカーを計画する。
楽器庫	<ul style="list-style-type: none"> ○各スタジオで使用するピアノや楽器等を収納するための楽器庫を整備する。 	レストラン・カフェ	<ul style="list-style-type: none"> ○レストランやカフェとして、飲食が可能な設備と厨房を計画する。 ○外部空間とのつながりを考慮し、芸術文化創造センター諸施設を利用する市民だけではなく、利用しない市民も気軽に立ち寄ることのできる動線を備えた計画とする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○音響や映像などの録音、編集、製作などの作業が行える設備を備えた、音響映像作業室なども検討する。 	託児室	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども連れの方が、鑑賞や活動などの間、一時的に子どもを預けることのできる託児機能を備え、多目的に利用できる室を計画する。 ○子どものための更衣や手洗い、トイレなどを備える。
管理系機能・その他			
考え方	芸術文化創造センターを管理運営していくために必要な機能として、以下の諸室を計画する。		
管理事務室	<ul style="list-style-type: none"> ○施設全体の管理運営を行うために20～30名程度の職員が執務できる事務室を計画し、施設全体を管理するのにふさわしい位置に配置する。 ○この部屋には付随して、応接室・会議室・技術者控室・更衣室（ロッカー室を兼ねる）、利用者カウンター・チケットカウンターなども計画する。 		
倉庫	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な倉庫を整備する。 		
機械室	<ul style="list-style-type: none"> ○電気、衛生、空調、その他、施設に必要な機械室を適宜整備する。 		
その他の諸室	<ul style="list-style-type: none"> ○清掃・維持管理職員などの控室を計画する。 ○防災センターなど監視機能を備える。 ○救護、授乳など多目的に利用できる場所を、複数計画する。 		